

東京アマデウス合唱団
第18回定期演奏会

D. Scarlatti

(1685~1757)

&

(1685~1750)

J. S. Bach

Tokyo Amadeus Chorus

'98 10/24(土)

石橋メモリアルホール

ご 挨拶

今宵は、お忙しい中をご来場いただき、団員一同厚くお礼申し上げます。東京アマデウス合唱団は、1980年の創立以来、W.A.モーツァルトの作品を中心にほぼ毎年1回の演奏会を行ってまいりました。

今回で、18回目の定期演奏会を開催する運びとなりましたことは毎回続けてご来場を頂いております方々の熱心なご声援に加え、ひとえに本日ご来場の皆様方の温かいご支援の賜物であり、団員一同心から感謝いたしております。

本日は、前半にドメニコ・スカルラッティ、後半にJ.S.バッハと、同じ1685年生まれの二人の作曲家の作品を演奏いたしますが、これは、団員が、結婚や転勤等種々の事由からかなり少なくなったことを考慮し、昨年より、やや小編成の曲を演奏するべく企画したものであります。

演奏会の費用や人員、練習時間の確保に苦しみながらも、指導者の熱意と団員の努力によって、なんとか本日を迎えることができることとなり、団員の一人一人が力を出し切って、今回の演奏会を成功させたいと、心から願っている次第です。

本日の演奏が皆様の心に、何がしかの印象の一滴を投げ込むことができますれば、私どもにとってこの上ないよろこびであります。秋の夜の一刻を東京アマデウス合唱団とともに、ごゆっくりお過ごしください。

1998年10月24日

東京アマデウス合唱団
団長 柿 沼 哲

The Program ---

第1ステージ ---

ドメーニコ・スカルラッティ

(Domenico Scarlatti) / 1685~1757

●Iste Confessor 「この主の証しびと」

●Missa Quatuor Vocum 「四声ミサ」

《休 憩》

第2ステージ ---

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ

(Johann Sebastian Bach) / 1685~1750

●Kyrie - Christe, du Lamm Gottes (BWV233a)
「キリエーキリストよ、神の小羊なる君よ」

●Kantate Nr. 196 / Der Herr denket an uns
カンタータ 196 番「主は我らを御心に留めて」(結婚カンタータ)

●Kantate Nr. 61 / Nun komm, der Heiden Heiland
カンタータ 61 番「いざ来ませ、異教徒の救い主」
(待降節第一主日のためのカンタータ)

今回の演奏曲目について

Iste Confessor Domini / Domenico Scarlatti

ドメーニコ・スカラルッティ（1685-1757）は十六歳で父アレッサンドロが楽長を務めたナポリの宮廷礼拝堂のオルガン奏者になりました。作曲はすでにその頃から始めていたようですが、作品は現存していません。父の影響下を離れて一人前の音楽家として歩み出したのは1709年からローマでポーランド女王マリア・カシミーラに仕えた時からで、この曲が書かれた時、彼はヴァチカン駐在のポルトガル大使フォンテス侯爵に仕えていました。作られた目的ははっきりしませんが、1715年4月11日の聖レオの祝祭と遺骸の移転の時は、聖ペトロ聖堂の参事会員全員が、多くの歌手達とともにこの讃歌を歌いながら通りを行進して行った、とカークパトリックが書いています。そう言えば、この曲は聖歌でありながら2分の2拍子のパストラレに似た穏やかな行進のリズムを思わせるところがあり、五節の歌詞が比較的短い同じ旋律で繰り返され、そのうち三節がユニゾンでうたわれるのは、行進の時に歌いやすく、しかも覚えやすいように単純なスタイルにしたのかも知れません。

Missa Quartuor Vocum / Domenico Scarlatti

フォンテスに仕えたドメーニコは、1719年からリスボンの総大司教のいる礼拝堂で楽長を務めるようになり、国王ジョアン五世の公女マリア・バルバラと弟ドン・アントニオのハープシコードの教師を兼任したことから、公女がスペイン皇太子フェルナンドと結婚し、1728年に彼も随行してスペインのマドリードに渡りました。そして、そこで没するまでの約30年、その宮廷の家来としていわば無名の生涯を送ることに成ります。この無伴奏四声のト短調ミサは1754年、マドリードで書かれたものです。それが、王室礼拝堂の合唱曲集の一つに写し込まれていたことによって、今日かろうじて知られるようになりました。曲はバロックの時代としては古風なスタイルでできていますが、器乐的なリズムらしいものは随所に見られ、ハーモニーの構成も特徴のあ

るものです。特に半音を使った十字架の苦難を暗示する《Et incarnatus est》の動きは、注目に値するものです。

Kyrie BWV233a / Johann Sebastian Bach

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ（1685-1750）は、終始プロテスタント教会で音楽家としての職務を続けて来ましたが、ライプチヒ時代に1733年ドレスデンのザクセン選帝侯フリードリヒ・アウグスト二世に贈った口短調ミサと、ほかに教会の日曜・祝日礼拝に必要な音楽として4つのKyrieとGloriaから成る短いミサ曲（小ミサ）と三曲のSanctusを後世に遺しました。口短調ミサについては演奏の機会が無かったとする説と選帝侯の即位を祝うプロテスタント礼拝で演奏されたと推測する説に分かれますが、KyrieとGloria、Sanctusは礼拝の必要から生まれたものでした。しかし、ここに演奏するKyrie BWV233aは早い時期、おそらくヴァイマル時代に作曲したもので、ライプチヒ時代のKyrie-GloriaミサBWV233はこれを改訂してGloriaを加えたものでした。BWV233と違う最大の特徴は、ラテン語式文と並行してソプラノで礼拝に使われるドイツ語典礼聖歌《Christe, du Lamm Gottes》（ルター作）が歌われることです。これを組み合わせたバッハの意図が、礼拝の対象を十字架上のキリストに向けようとするプロテスタント信仰から出ていることは言うまでもありません。BWV233はこの歌詞を使わず、ホルンとオーボエで演奏します。

カンタータ Der Herr denket an uns BWV196 / Johann Sebastian Bach

バッハがミュールハウゼンで聖ブラジウス教会のオルガニストを務めていた時代の作品で、初演は1708年6月5日、アルンシュタットの牧師ヨーハン・ローレンツ・シュタウパー（バッハが最初の妻マリーア・バルバラと結婚したときの司式者）とレギーナ・ヴェーデマン（バルバラの叔母）の結婚式のために書かれたと推定されています。伴奏器楽は弦楽器のみの小編成で、室内楽風にまとめられています。導入のシンフォニアは続く合唱の主題を発展させたものですが、長調の旋律が奏でるリズムはキリストの十字架への歩みを象徴するときに使われるのと同じで、キリストの贖罪による憐れみが表現されているよう

です。続く合唱は、音楽全体がシュヴァイツァーの指摘した主題に基いて喜びそのものを明るく、軽快に表現します。歌詞は詩編第 115 編第 12 節を使用していて、「アロンの家」は牧師の聖職にあるシュタウパーの家を意味するのでしょうか。ソプラノのアリアはユニゾンのヴァイオリンの旋律に乗って続く第 13 節を歌い、男声による二重唱が第 14 節、そして終曲の合唱が第 15 節を歌って結婚する当事者達への主の祝福を祈ります。歌詞は聖書そのままではなく、時には「！」を使って感情ゆたかに歌われています。

カンタータ Nun komm, der Heiden Heiland BWV61

／Johann Sebastian Bach

バッハは 1708 年 6 月、BWV196 を初演した直後にヴァイマルの宮廷オルガニストに転職して、そこで宮廷のために四週間ごとにカンタータを作曲する義務を負うことに成ります。この曲は 1714 年 12 月 2 日、待降節第一日曜日の礼拝のために書かれました。歌詞は E. ノイマイスターがその年に作成したもので、バッハのカンタータの中でも最もよく知られている作品の一つです。序曲は弦楽の奏でるフランス風序曲に乗って待降節の聖歌《Nun komm, der Heiden Heiland》の第 1 節が歌われます。その旋律が原曲よりもやや哀しみを帯びているのは、キリストの十字架と降誕への期待が重なってイメージされているからです。続いてテノールのソロがキリストの受肉を喜ぶレチタティーヴォを歌い、主を迎え入れることによって教会の新年の営みが祝福されるように祈るアリアへと移っていきます。そして、キリストの声を表すバスのレチタティーヴォがヨハネ黙示録第 3 章第 20 節をう歌い、キリストを私達が受け入れることを促します。すると、ソプラノのアリアが戸を叩くキリストの要請にしたがって心の扉を開く意思を歌いあげます。歌詞のなかの〈Staub und Erde〉（塵と土）は、創世記に神が「土（アダマ）の塵」で人（アダム）を造られたとあるのに基いています。終曲合唱はフィリップ・ニコライの有名なコーラル《Wie schön leuchtet Morgenstern》の第 7 節後半を歌い、ソプラノに原曲の旋律が現れます。

（野口 碩）

PROFILE

指揮・バス 東京芸術大学卒業、同大学院修了。芸大定期演奏会のブラームス「ドイツレク
齋藤明生 イエム」でソリストに選ばれた他、在学中から、ベートーベン「交響曲第九番」
や、多くの宗教音楽のソリストを務める。92年には独ライブ「チヒ聖トーマス教
会において H.J.ロッチュ指揮によるカンタータ礼拝式にソリストとして出演し
た。また在学中から在籍している芸大バッハカンタータクラブでは、多年にわた
り演奏委員長を務める。声楽を兵藤豪希、R.フィッシャー、Ph.フッテンロッハー、
宇田川貞夫に、宗教音楽を小林道夫、兵藤豪希の各氏に師事。現在、宗教音楽
研究会合唱団、渋谷混声合唱団指揮者。87年から当合唱団の指導に当たっている。

ソプラノ 東京芸術大学卒業、同大学院修士課程修了。嶺貞子、佐竹由美、辻秀幸、リリ
村谷祥子 アーナ・ポーリ、イアン・ハニマンの各氏に師事。神奈川県立音楽堂主催新人演
奏会で新人賞を受賞。同県立音楽堂の推薦音楽会に出演。NHK「FM リサイタル」
に出演。現在はバッハ・コレギウム・ジャパンに所属し、合唱・ソロを務める他、
宗教作品のソリストとして活動を行っている。川崎市民オペラ会員。

テノール 東京芸術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修了。イタリアのマチュエラータ大学
中嶋俊夫 に留学。バロック音楽の様式、唱法を有村裕輔、宇田川貞夫の両氏に師事。94、
96、97年の夏にはイタリアのウルビーノで古楽講習会に参加し、
R.Bertini, C.Miatello, R.Alessandrini らに学ぶ。これまでヘンデル、バッハ、モー
ツァルトなどの宗教曲及び「第九」のソロを務める。またダ・ガリアーノのオペ
ラ「ダフネ」に出演するなど、イタリア・バロックをレパートリーとした演奏活
動も行っている。グループ「レ・カマラード」のメンバー。

オルガン 東京芸術大学卒業。ピアノを滝崎真代子、クラリネットを千葉国夫、室内楽を
水野克彦 細野孝興の各氏に師事。オルガンの手ほどきを今井奈緒子氏に受ける。オルガン、
通奏低音のほか、合唱指導、ピアノ伴奏、作曲と幅広く活動。茗荷谷キリスト
教会オルガニスト。日本オルガニスト協会会員。日本オルガン研究会会員。当
合唱団練習ピアニスト。

弦 楽 Vn.1 中馬陽子、Vn.2 松川裕子、Vla.1 深沢美奈、Vla.2 奥永美樹
Vc. 牧野ルル子、Kb. 柳澤智之

東京アマデウス合唱団

ソプラノ 大久保ルミ子、桑島加代子、辻村順子、永瀬久子、村松あおい、
森下純子

アルト 相澤美佐、伊藤正子、加藤尚子、重泉秀子、鈴木寿見、辻 敏子、
宮崎米子

テノール 伊原 宏、片岡 繁、土屋演梯、吉田一郎

バ ス 柿沼 誓、篠原茂彌、野口 碩

歌 詞 対 訳

Iste Confessor(この主の証人) Domenico Scarlatti

1.
Iste Confessor Domini,
sacratu festa
plebs cujus celebrat per orbem,
hodie laetus meruit
secreta scandere caeli.
- この主の証人(あかしびと)、
聖別されし祝日を
主の民こそりて祝い祭る、
この日めでたくみまかりて
(この世と)隔てられ、天にのぼり給えり。
2.
Qui pius, prudens, humilis,
pudicus, sobrius, castus fuit
et quietus vita, dum pressens
vegetavit ejus corporis artus.
- この人は信深く、聡く、心低く、
慎み深く、節制を守り、行い正しく、
安らかなる生きざまは、苦しみの中にも
おのが身体の肢体を働かせり。
3.
Ad sacrum cujus tumulum frequenter,
membra languentum modo sanitati,
quo libet morbo fuerint gravata, restituuntur.
- 彼の聖なる墓に群がりつどへば、
病める肢体もたちどころに健やかなり。
いづこにて病に悩まざるも癒さる。
4.
Unde nunc noster chorus in honorem
ipsius hymnum canit nunc libentur,
ut piis ejus meritis
juvemur omne per aevum.
- されば我等聖歌隊は誉れによりて
おのが賛美の歌をうたい、かつ喜ばる、
信深きこの人の功(いさお)によりて
我等全てものとしえに喜ばるるゆえに。
5.
Sit salus illi,
decus atque virtus,
qui, supra caeli residens cacumen,
totius mundi machina gubernat
trinus et unus.
Amen.
- あの世にて幸いあらんことを、
徳と力のあらんことを。
もろもろの天を越えて頂きに坐し、
全ての世界をつくり治め、
三つにして一つなる君によりて。
ア-メン。

Missa quatuor vocum(四声ミサ) Domenico Scarlatti

1. Kyrie
Kyrie eleison.
Christe eleison.
Kyrie eleison.
- 主よ、あわれみ給え。
キリストよ、あわれみ給え。
主よ、あわれみ給え。
2. Gloria
[Gloria in excelsis Deo.](グレゴリオ聖歌)
Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.
Laudamus te.
Benedicimus te.
Adoramus te.
Glorificamus te.
Gratias agimus tibi propter magnam gloriam tuam.
Domine Deus, Rex caelestis, Deus Pater omnipotens.
Domine Fili unigenite,
Jesu Christe.
Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris.
Qui tollis peccata mundi, miserere nobis.
Qui tollis peccata mundi,
suscipe deprecationem nostram.
Qui sedes ad dexteram Patris, miserere nobis.
Quoniam tu solus Sanctus.
Tu solus Dominus.
Tu solus Altissimus, Jesu Christe.
Cum Sancto Spiritu in gloria Dei Patris.
Amen.
- いと高き処には栄光、神にあれ。
そして地には平和、善意の人々にあれ。
汝をほめたたえまつる。
汝を拝みまつる。
汝をあがめまつる。
汝の栄光をたたえまつる。
汝の大いなる栄光のゆえにわれら感謝しまつる。
神、即ち天の王、全能の御父にます神なる主よ、
御ひとり子なる主よ、
イエス・キリストよ。
神にして、神の小羊、御父の御子なる主よ。
世の罪を除き給う君、我らをあわれみ給え。
世の罪を除き給う君、
我らの赦しの願いを受けいれ給え。
御父の右に座し給う君、我らをあわれみ給え。
汝のみ聖なる君にませば。
汝のみ主なり。
汝のみいと高し、イエス・キリストよ。
御父なる神の栄光のうちにいます聖霊とともに。
ア-メン。

3. Credo

[Credo in unum Deum,] (グレゴリオ聖歌)

Patrem omnipotentem,
factorem caeli et terrae,
visibilium omnium, et invisibilium.

Et in unum Dominum Jesum Christum,
Filium Dei unigenitum.

Et ex Patre natum ante omnia saecula.

Deum de Deo, lumen de lumine,

Deum verum de Deo vero.

Genitum, non factum, consubstantiali Patri:
per quem omnia facta sunt.

Qui propter nos homines,
et propter nostram salutem descendit de caeli.

Et incarnatus est de Spiritu Sancto
ex Maria Virgine:

Et homo factus est.

Crucifixus etiam pro nobis:

sub Pontio Pilato passus,

et sepultus est.

Et resurrexit tertia die,
secundum Scripturas.

Et ascendit in caelum:

sedet ad dexteram Patris.

Et iterum venturus est cum gloria,

judicare vivos et mortuos:

cujus regni non erit finis.

Et in Spiritum Sanctum, Dominum,

et vivificantem:

Qui ex Patre Filioque procedit.

Qui cum Patre et Filio simul adoratur,
et conglorificatur:

qui locutus est per Prophetas.

Et unam sanctam catholicam

et apostolicam Ecclesiam.

Confiteor unum baptisma

in remissionem peccatorum.

Et expecto resurrectionem mortuorum.

Et vitam venturi saeculi.

Amen.

4. Sanctus

Sanctus, Sanctus,

Sanctus Dominus Deus Sabaoth.

Pleni sunt caeli et terra gloria tua.

Hosanna in excelsis.

5. Benedictus

Benedictus qui venit in nomine Domini.

Hosanna in excelsis.

6. Agnus Dei

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:

miserere nobis.

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:

dona nobis pacem.

我は信ず、唯一の神を、

全能の御父を、

天と地の造り主を、

全ての見ゆるものと見えざるものの造り主を。

そして我らの主イエス・キリストを信ず、

ひとり子として生まれ給いし神の御子を。

御父よりよろずの世の前に生まれ給いし御子を。

神より出でし神、光より出でし光を、

まことの神より出でしまことの神を。

造られずして生まれ給える、御父と一体なる君を。

全ての造られしものその君より成れり。

その君我ら人類のため、

我らの救いのために天より降り給う。

そして聖霊により受肉し給い、

処女マリアより出で、

人と成り給えり。

我らのために十字架にさえつけられ給えり。

すなわちポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、

葬られ給えり。

そして三日目によみ返り給えり、

聖書に従いて。

そして天に昇り給う。

即ち御父の右に座し給う。

そして栄光とともに再び来たり給わんとす、

生けるものと死せるものをさばき給うなり。

されば、その君の王権は止むこと無からん。

且つ主にして、

生命を給う聖霊を信ず。

そは御父より御子に現れ給う。

そは御父と御子とともにあがめられ、

たたえらるるなり。

即ちそは預言者達により言い置かれし所なり。

そして一にして聖なる公教の、

且つ使徒継承の教会を信ず。

我は一つのバプテスマを認む、

罪の赦しの時に。

そして死せる者のよみがえりを望む。

併せて来らんとする世の命をも。

アーメン。

聖なるかな、聖なるかな、

聖なるかな、万軍の主なる神、

汝の栄光天と地に満てり。

いと高き所にホサナ(歓呼の言葉)。

ほむべきかな、主の御名によりて来たる者。

いと高き所にホサナ。

世の罪を除き給う神の小羊よ。

我らを憐れみ給え。

世の罪を除き給う神の小羊よ。

我らに平安を与え給え。

Kyrie--Christe, du Lamm Gottes (小ミサBWV233異稿)

第一節(ラテン語典礼聖歌Kyrieの第1行とルタ-典礼聖歌第1節の組み合わせ)

Kyrie eleison.

主よ、あわれみ給え。

[Christe, du Lamm Gottes,
der du trägst die Sünd' der Welt,
erbarm dich unser.]

キリストよ、神の小羊なる君よ、
世の罪を取りぞき給う、
われらの罪をもあわれみ給え。

第二節(ラテン語典礼聖歌Kyrieの第2行とルタ-典礼聖歌第2節の組み合わせ)

Christe eleison.

キリストよ、あわれみ給え。

[Christe, du Lamm Gottes,
der du trägst die Sünd' der Welt,
erbarm dich unser.]

キリストよ、神の小羊なる君よ、
世の罪を取りぞき給う、
われらの罪をもあわれみ給え。

第三節(ラテン語典礼聖歌Kyrieの第3行とルタ-典礼聖歌第3節の組み合わせ)

Kyrie eleison.

主よ、あわれみ給え。

[Christe, du Lamm Gottes,
der du trägst die Sünd' der Welt,
gib uns deinen Frieden. Amen.]

キリストよ、神の小羊なる君よ、
世の罪を取りぞき給う、
我らに汝の平安を与え給え。ア-メン。

カンタータ 196番 (結婚カンタータ)

Der Herr denket an uns

Johann Sebastian Bach

1. シンフォニア (ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、オルガン独奏)

2. 合唱 (詩編115.12による)

Der Herr denket an uns und segnet uns.
Er segnet das Haus Israel,
er segnet das Haus Aaron.
Der Herr denket an uns!

主は我らを御心に留めて祝福し給う。
主はイスラエルの家を祝福し、
アロン(ユダヤ大祭司)の家を祝福し給う。
主は我らを御心に留め給う!

3. アリア (ソプラノ 詩編115.13による)

Er segnet, die den Herrn fürchten,
beide, Kleine und Große.

彼は主を恐るものを祝福し給う、
小さきも大いなるも。

4. 二重唱 (テノール、バス 詩編115.14による)

Der Herr segne euch,
der Herr segne euch je mehr und mehr;
euch und eure Kinder.
Der Herr segne euch!

主が汝らを祝福し給わんことを、
主が汝らをいよいよ祝福し給わんことを、
汝らと汝らの子らを。
主が汝らを祝福し給わんことを!

5. 合唱 (詩編115.15による)

Ihr seid die Gesegneten des Herrn!
der Himmel und Erde gemacht hat.
Ihr seid die Gesegneten des Herrn!
Amen!

汝ら、主の祝福を受くるものにてあれ!
天と地を造り給える主なれば。
汝ら、主の祝福を受くるものにてあれ!
ア-メン。

カンタータ 61番 (待降節第一主日のためのカンタータ)
Nun komm, der Heiden Heiland Johann Sebastian Bach

1. 序曲 (ルター作詞待降節聖歌第一節に基づく合唱)

[Nun komm, der Heiden Heiland,
der Jungfrauen Kind erkannt,
des(dag) sich wundert alle Welt,
Gott solch Geburt ihm bestellt.]

いざ来ませ、異邦人の救い主、
処女の子と知らるるものよ、
その事を世はこそぞりてあやしめど、
神はかかる出生を彼に求め給う。

2. レチタティーヴォ (テノール)

Der Heiland ist gekommen,
hat unser armes Fleisch und Blut
an sich genommen
und nimmet uns zu Blutsverwandten an.
O allerhöchstes Gut,
was hast du nicht an uns getan?

Was tust du nicht noch täglich an den Deinen?
Du kömst und läßt dein Licht
mit vollem Segen scheinen.

救い主は来ませり、
我らのいやしき肉と血を
自ら取りて、
我らを血縁の者として受入れ給えり。
おお、何にも勝るめでたさよ、
汝、我らに何をなさざりしや?
今なお日々御身の血縁の者らに何をなさざるや?
汝来給いて御身の光を
ありあまる祝福を以て輝かし給えるを。

3. アリア (テノール)

Komm, Jesu, komm zu deiner Kirche
und gib ein selig neues Jahr!
Befördre deines Namens Ehre,
erhalte die gesunde Lehre
und segne Kanzel und Altar!
(冒頭の二行を繰り返します)

来ませ、イエスよ、御身の教会へ来給いて
こよなく幸ある新しき年を恵みたまえ。
汝の御名の誉れを選び、
健全なる教えを守り
説教壇と祭壇とを祝福したまえ!

4. レチタティーヴォ (バスによるヨハネ聖書3章20節の翻話)

[Siehe, ich stehe vor der Tür
und klopfe an.
So jemand meine Stimme hören wird
und die Tür auf tun,
zu dem werde ich eingehen
und das Abendmahl mit ihm halten,
und er mit mir.]

見よ、われは戸の外に立ちて
叩く。
されば、だれにても我が声を聞いて
戸を開くれば、
我入りて
彼と夕食を共にし、
彼も我とかくなさん。

5. アリア (ソプラノ)

Öffne dich, mein ganzes Herze,
Jesus kömmt und ziehet ein.

Bin ich gleich nur Staub und Erde,
will er mich doch nicht versemähn,
seine Lust an mir zu sehen,
dag ich seine Wohnung werde.
O wie selig werd' ich sein!

開けよ、我が全き心、
イエスの君来たり給うて、入り給わんことを。

たとえ、われ塵と土に過ぎずとも、
われを軽んじ給うこと無からん、
彼の御意はわれと会いて、
われ彼の住まいと成ることなれば。
おお、われ何と幸せなることか!

6. コラール (フィリップ・ニコライのコラール第7節後半)

Amen, Amen.
Komm, du schöne Freudenkrone,
bleib nicht lange!
Deiner wart' ich mit Verlangen.

アメン、アメン。
来ませ、うるわしき喜びの冠よ、
とくやどり給え!
われは汝のもの、心より望みて汝を待つ。

(訳/野口 碩)



| | | |
|----------------|-------------|----------------------------|
| 1981 February | Mozart | :RÉQUIEM |
| 1981 November | Händel | :MESSIAH |
| 1982 November | Fauré | :RÉQUIEM |
| 1983 September | Mozart | :KRÖNUNGS MESSE |
| 1984 September | Mozart | :RÉQUIEM |
| 1985 October | Bach | :KANTATE Nr.106 |
| 1986 October | Mozart | :GROSSE MESSE |
| 1987 October | Schütz | :MUSIKALISCHE EXEQUIEN |
| 1988 December | Mozart | :VESPERAE |
| 1989 November | Mozart | :RÉQUIEM |
| 1991 February | Mozart | :LITANIAE |
| 1991 November | Mozart | :DOMINICUS MESSE |
| 1992 Nov. | Charpentier | :MESSE DE MINUIT POUR NOËL |
| 1993 November | Mozart | :MISSA BREVIS |
| 1994 November | Mozart | :RÉQUIEM (JOINT CONCERT) |
| 1995 October | Bach | :KANTATE Nr.182 |
| 1996 November | Mozart | :VESPERAE |
| 1997 October | Mozart | :MISSA SOLEMNIS |
| 1998 October | Bach | :KANTATE Nr.61 |

合唱団員募集

東京アマデウス合唱団では次回演奏会に向け、団員を募集しています。
音楽を愛する方なら経験は不問です。練習は毎週水曜日 18:30~21:00、
宮団地下鉄東西線神楽坂駅近くの「聖バルナバ教会」で行っています。
入団費は1,000円、団費は月4,000円です。(他に楽譜代など)
合唱に興味をお持ちの方、是非お越しください。見学も歓迎です。
問合せ: 03(3960)7714・大久保、048(476)4056・辻村